

3月27日-4月2日

歴代第二 5-7 章

[129 番の歌](#)と祈り

開会の言葉（1分）

神の言葉の宝

「[私の.....心はいつもここにある](#)」（10分）

宝石を探し出す（10分）

[代二 6:29, 30](#) 誰かがあるいはイスラエルの民の皆が苦しみや痛みを覚え、この家に向かって両手を広げて祈るなら、どの祈りも恵みを求めるどの願いも、30 あなたが、住まいである天からお聞きになり、許し、それぞれの歩みに応じた報いをお与えになりますように。あなたは一人一人の心をご存じだからです。あなただけが人の心を知っておられます。

ソロモンの祈りが私たちにとって慰めとなると言えるのはなぜか。

（[塔 10 12/1 11 ページ 7 節](#)）わたしたちはソロモンの祈りから慰めを得ることができます。他の人はわたしたちの内奥の感情 — わたしたち各人の「災厄」や「痛み」 — を十分に理解してくれないかもしれません。（[箴言 14:10](#)）しかし、エホバはわたしたちの心を知っておられ、深く気遣ってくださいます。わたしたちが祈りによって自分の心を注ぎ出すなら、重荷は耐えやすいものになります。「自分の思い煩いをすべて神にゆだねなさい。神はあなた方を顧みてくださるからです」と聖書は述べているのです。— [ペテロ第一 5:7](#)。

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。⇒（6:33）「この地上の全ての民がエホバの名を知って、エホバを畏れるようになる」記述から、聖書やエホバを崇拝する人々が国際的なものであり、私たちがこの祈りの恩恵に浴していることを示している。その恩恵に感謝して、イエスの死を思い起こす集まりへの国際的な招待活動を 4/4 まで頑張って続けていきたい。

聖書朗読（4分）[代二 6:28-42](#)（[教励 第 11 課](#)）

野外奉仕に励む

記念式への招待（3分）[話し合いのサンプルの話題](#)に沿って話す。関心を示した家の人に「[イエスの死を思い起こしましょう](#)」の動画を紹介し、話し合う。（再生はしない）（[教励 第 3 課](#)）

再訪問（4分）記念式の話が終わった後、招待した人と会話を始め、その人の疑問に答える。（[教励 第 17 課](#)）

話（5分）[塔 93 2/1 31](#) 主題: 特別な事情があって記念式に出席できない場合、どうすればよいか。（[教励 第 18 課](#)）

クリスチャンとして生活する

36 番の歌

「[あなたの心を守れ](#)」（10 分）討議。[動画](#)を視聴する。

会衆の必要（5 分）

会衆の聖書研究（30 分）[暮 レッスン 41 ポイント 5, まとめ, 復習, 次のステップ](#)

閉会の言葉（3 分）

[34 番の歌](#)と祈り

[^（代二 5:1-7:22）](#) こうしてソロモンは、エホバの家のために必要な仕事全てを完了した。ソロモンは、父ダビデが聖なるものとした物を運び入れた。銀、金、器物類全部を真の神の家の宝物庫に納めた。2 ソロモンはイスラエルの長老たち、全ての部族長、イスラエルの氏族長たちを招集した。彼らはエホバの契約の箱を「ダビデの町」つまりシオンから運ぶため、エルサレムにやって来た。3 イスラエルの全ての人たちは、第7の月に行われる祭り*の時、王の前に集合した。4 イスラエルの全ての長老が到着すると、レビ族の人たちは箱を担いだ。5 彼らは、箱、会見の天幕、天幕の中にあった全ての聖なる器具を運んだ。祭司とレビ族*が運んだ。6 ソロモン王と、王のもとに招集されたイスラエルの民全体が、箱の前にいた。数え切れないほど多くの羊や牛が犠牲として捧げられた。7 祭司たちはエホバの契約の箱を所定の場所に置いた。家の奥の部屋つまり至聖所のケルブの翼の下である。8 箱がある場所の上にケルブの翼が広がっていたので、箱とその棒はケルブに覆われていた。9 棒は長かったため、先端が奥の部屋の前の聖所から見えた。しかし外からは見えなかった。それらは今もそこにある。10 箱の中には2枚の石板以外は何もなかった。その石板は、エジプトから出てきたイスラエルの民とエホバが契約を結んだ時に、ホレブでモーセがそこに納めたものである。11 祭司たちが聖なる場所から出てくると（そこにいた祭司たちは皆、どの組かに関わりなく、自分を神聖なものとしていた）、12 アサフ、ヘマン、エドトン、またその3人の子や兄弟たちが率いるレビ族の歌い手たち皆が、上等の織物を着て、シンバルや弦楽器やたて琴を持ち、祭壇の東に立っていた。また、彼らと共に、120人の祭司がラッパを吹いていた。13 ラッパ奏者と歌い手たちが一つになってエホバに賛美と感謝を捧げ、ラッパやシンバルなどの楽器の音色が響く中、「神は善い方、神の揺るぎない愛は永遠に続く」とエホバを賛美すると、雲が家に、エホバの家に満ちた。14 祭司たちは雲に遮られ、奉仕することができなくなった。エホバの栄光が真の神の家に満ちたのである。

6 その時、ソロモンは言った。「エホバは、濃い暗闇の中に住む、とおっしゃいました。2 私は今、あなたのために、荘厳な家を、あなたがいつまでも住める場所を建てました」。3 王は向き直って、イスラエルの会衆全体のために祝福を願い求め始めた。その間、イスラエルの会衆全体は立っていた。4 王は言った。「ご自分の口で私の父ダビデに約束し、ご自分の手でそれを果たされたイスラエルの神エホバが賛美されますように。神はこう言いました。5 『私の民をエジプトから連れ出した日から今まで、私は、私の名が尊ばれる家を建てるためにイスラエルのいずれかの部族の領地から町を選ぶことはしなかった。私の民イスラエルの指導者になる人を選ぶこと

「私の.....心はいつもここにある」

エホバは**神殿をご自分のための家と**して選んだ。(代二 7:11, 12)

エホバは、**ご自分の心はいつも神殿にある**と述べ、**神殿で行われることに強い関心を持つ**ていることを示した。(代二 7:16。塔 02 11/15 5 ページ 1 節)

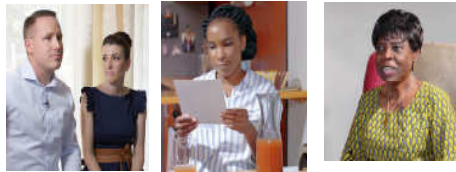
「**心を尽くして**」エホバに仕えることをやめるなら**神殿は荒廃**する、と**警告**されていた。(代二 6:14; 7:19-21。洞-1 1227 ページ 1 節) 歴史 この神殿は西暦前 607 年にネブカドネザル王の率いるバビロニア軍に滅ぼされる時まで存続しました。(王二 25:9; 代二 36:19; エレ 52:13) イスラエルが**背いて偽りの宗教を奉**じたために、**神は諸国民がユダとエルサレムを悩まし、時にはその神殿から財宝を奪い取るのを許**されました。神殿も、ある期間なおざりにされたことが幾度ありました。**エジプトの王シシャク**はソロモンの子レハベアムの時代(西暦前 993 年)に、つまり**神殿の奉献式のわずか 33 年ほどの後に神殿から財宝を奪**いました。(王一 14:25, 26; 代二 12:9) **アサ王**(西暦前 977-937 年)はエホバの家に対して**敬意を抱**いていましたが、エルサレムを守るために、**愚かにも神殿の財宝の中から金銀を取ってシリアの王ベン・ハダド 1 世にわいろとして贈り**、イスラエルの王バアシャとの契約を破らせようとしてしました。—王一 15:18, 19; 代二 15:17, 18; 16:2, 3)



神殿の奉献式の時、人々は**自分の心が神殿から離れることなどない**と考えていたかもしれない。しかし残念なことに、人々はエホバへの崇拝に対する熱意を徐々に失っていった。

考えてみよう: 「**私は心を込めてエホバを崇拝**しているだろうか」。

^ (代二 7:11, 12) こうしてソロモンはエホバの家と王の家*を完成させた。エホバの家と自分の家に関して行おうと考えていたことを全て滞りなくやり遂げた。12 エホバは夜、ソロモンに現れて、こう言った。「私はあなたの祈りを聞き、この場所を犠牲のための家として選んだ。



「あなたの心を守れ」

ソロモンは聖なる力に導かれて「ほかの何よりも、あなたの心を守れ」と書きました。（格4:23）残念なことに、神の民イスラエルは「心を尽くして」エホバに仕えることをやめてしまいました。（代二6:14）ソロモン王でさえ、異教徒の妻に誘われて心をほかの神々に向けるようになりました。（王一11:4）では、どうすれば心を守れますか。その点が、「[『ものみの塔』2019年1月号14-19ページ](#)の研究記事で扱われました。<https://n.jwdb.com/?m=s1901> どうすれば心を守れるか

「[『ものみの塔』から学ぶ: 心を守りましょう](#)」の動画を見て、次の質問に答えましょう。

1. 兄弟姉妹は、信仰を弱めかねないどんな影響にさらされていましたか。心を守る上で、この研究記事はどのように役立ちましたか。

①ブレントとローレン

- とても中の良かった友達がエホバから離れてしまった。
- 危険に気づいた見張りの者は都市を守るために警告を発した。警告を聞いた門衛は門を閉めた。二人ともそうする必要があった。どうすべきかははっきりしていた。
- 友達との友情よりもエホバとの友情を大切にしなければならない。
- エホバから離れた友達のことをいつも気にかけている。いつか一緒に奉仕できる日を楽しみにしている。

②ウムジェイ

- 全時間奉仕を始めようと思っていたが、まだ迷いがあった。父は自分がエホバに仕えることを反対だったが、問題を乗り越えて11歳でバプテスマを受けた。自分は良くやっているとっていた。高校を卒業し、大学に進んだ。
- 大学に行っていると頼りになるのはお金や物だと感じるようになる。自分の家を持ち安定した生活をするのが一番だと思い込まれる。でもそれには犠牲が伴う。サタンはお金さえあれば安心だという考えを広めている。でも一生懸命お金を稼ごうとすると神との友情を失ってしまうかもしれない。
- 今全時間奉仕をしている。エホバは本当に良く世話してくださる。これからもものみの塔で学んだ原則を忘れないようにしたい。心を守り続ける必要がある。ベストを尽くしてエホバに仕えたいです。
- 良心という見張りの者がきちんと警告を発し、門を閉じるようにしておかなければと思った。

③ハッピー・ラユー

- エンターテインメントの選択について考えさせられた。幾つになっても矯正が必要。テレビを見てゆっくりするのが好きだが、最近はなかなか良い番組が見つからない。もちろん不健全なものは見ないが、でもこの番組を見てエホバとの関係が強まるかしらと考えるようになった。
- ものみの塔にはドラマのストーリーが人に大きな影響を与えるとあった。それでこれまで見ていた幾つかの番組はもう見ないことにした。
- まだまだ努力しないとイケない。言うのは簡単だが、実行するかどうかは自分次第。心を守ることは本当に大切。

（何を当てはめますか） 心を守るためにできること

- サタンの考え方の影響を受けないようにする。
- 「見張りの者」つまり良心をきちんと働かせる。
- 生活の中で聖書の原則を当てはめる。

2. この研究記事はあなたにとってどのように役立ちましたか。

サタンとこの邪悪な世は私たちを絶えず攻撃してくるので、継続的に心を守る努力が必要。心を守るためにできる3つのことをチェックリストとして自分の生活を時々確認してみる。